

【学校へのBLS教育導入に関する検討委員会】

報告日：令和3年6月10日

【委員長】 名知 祥

【担当理事】 田中 秀治

【活動内容】 (令和2年4月1日～令和3年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

※新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催なし

2. 報告内容

本委員会は「学校教育に実技実施を伴う救命教育を導入・普及する事」を目標に活動している。これは、院外心停止の救命率向上のために活動している国際的なネットワークであるGRA (Global Resuscitation Alliance)が提唱している10 stepsの1つ「学校とコミュニティにおけるCPR・AEDトレーニングを義務化」に当てはまり、世界の潮流に沿った活動となっている。

例年、日本AED財団 school 部会と連携し、本委員会は学術的な役割、school 部会は実務的な役割と役割分担することで、より効果的に学校での救命教育導入の更なる促進を目指した活動を行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり例年より縮小した活動となっている。一方で蘇生ガイドライン改定の年度であったため、JRC 蘇生ガイドライン2020改定作業に本委員会メンバーが協力した。

<令和2年度 主な取り組み>

- 第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会でワークショップ「学校での救命教育の本格的な展開に向けて」を開催
 - WEB開催に変更
 - 学校への心肺蘇生教育導入に関する各地の取り組みを紹介
- 第22回日本救急看護学会学術集会で会員企画セッション「心停止ゼロを目指した救命教育の普及と救急看護師の役割」を企画
 - WEBでの抄録閲覧のみに変更
- 日本AED財団 school 部会との連携
 - 委員会は学術的な役割、school 部会はコンテンツやイベントなど実務的な役割
- 全国学校安全教育研究会との連携継続
- 学校教員のサポートとなるような精神的サポート・ケアに関わる取り組み
 - バイスタンダーサポート特別委員会と共同で検討

【活動計画】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

活動14年目を迎える令和3年度(2021年度)は、新型コロナウイルス感染症によって活動縮小を余儀なくされた現状を立て直し、引き続き学習指導要領の改定を見据えた「学校での救命教育導入の更なる促進」を目標にする。そのためには

- 教員養成課程へのBLS教育の導入促進
- 学校内でBLS教育を実施するための教員への支援
- 学校安全・危機管理マニュアルへのBLS導入促進

を具体的目標として、日本AED財団 school 部会と緊密に連携しながら教育現場と医療側の連携方法や、教員養成課程や教員に対する授業方法の伝達を検討していく。